

# 入選

## 本当の水不足とは

高岡市立牧野中学校 二年 野々垣 陽和

日本ユニセフ協会のサイトを開くと、「西アフリカ・トーゴの村で茶色く濁った水を飲む少年」の写真に、このような文が添えられています。

「どんなに汚くてもこの水を飲むしかない：。」

世界には、水不足で苦しんでいる国が数多く存在します。その半数近くが、サハラ砂漠以南のアフリカ諸国です。ここだけでも三百三十万人を超える子どもたちが、学校へ行く時間を削って水汲みをしています。どうしてアフリカでは水不足が深刻化しているのか、原因を調べてみることにしました。

世界最古の独立国の一つ、エチオピア。この国の水不足の原因は、「干ばつ」です。干ばつとは、長い間雨がふらなかつたり、雨が少なかつたりする日照りのこと。でも、干ばつはアジアやヨーロッパでも起こることです。では、なぜアフリカの方が水不足が深刻化しているのでしょうか。

それは、エチオピアを含むアフリカ諸国の多くが「発展途上国」であることが大きく関係しています。家庭に水道がないどころか、村に井戸さえないという地域がたくさんあり、水道施設などのインフラも設備されていません。このように、水不足の深刻化には、天候だけでなく国の豊かさも関係しているのです。

調べてみて分かったのは、私の水不足に対する「黒人」「砂漠」というイメージは、水不足の現状の入り口に過ぎなかつたということ。私がこれまで水不足の原因だと考えていたのは、「黒人」や「砂漠」からも連想されるように「乾燥」と「日照り」。発展途上であることが、水不足と関係しているとは驚きました。雨がたくさん降って豊富に水があつても、届けるシステムがないと、朝から晩まで重たい重たい水を提げて歩く子供たちは減らない。水をくんできても、その

水をきれいにするシステムがないと、濁った水を飲み体を壊す人たちは減らない。水不足の地域の人たちにとって、目の前に水があるのに飲めないことは、とてもつらいと思います。飲めば体を壊すと分かっている。でも、「この水を飲むしかない：。」今回水不足について調べたことで、この文の意味が改めて分かりました。

また、水不足という言葉にも、深い意味があるなと感じました。雨が降らなくて、乾燥している土地は「水」がないから「水」不足でも、雨は降ってもインフラが設備されていない土地は、「水」はあります。つまり、こういった土地は「きれいな水」不足なのです。日本人にとって「水」とは、透明で清らかなものであるため、「きれいな」がはぶかれていてもあまり気になりません。「ああ、透明な水がたりないのか」と。しかし、現地の人にとって「水」とは、濁った、さまざまなゴミが浮いたもの。水不足といえ、**「水」は、あるんだ：。」**となるでしょう。「水」への印象の差が、水が豊かな国と水が乏しい国の差なのだと思います。

私はまだ未成年なので、現地に行つてどうにかすることも、何万円もの募金をすることもできません。そんな私に今できることは、現地のことについて「知る」ことだと思います。水の豊かな国で過ごす自分の生活に満足せず、世界には水不足の国がたくさんあつてそれぞれ原因が違うのか：と、まずは知ること。それが、私たちが今できることであり、これから生きていく上で大事なことだと思います。